

Sustainable Report No.***

バスケットチームが 子ども食堂を運営



サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

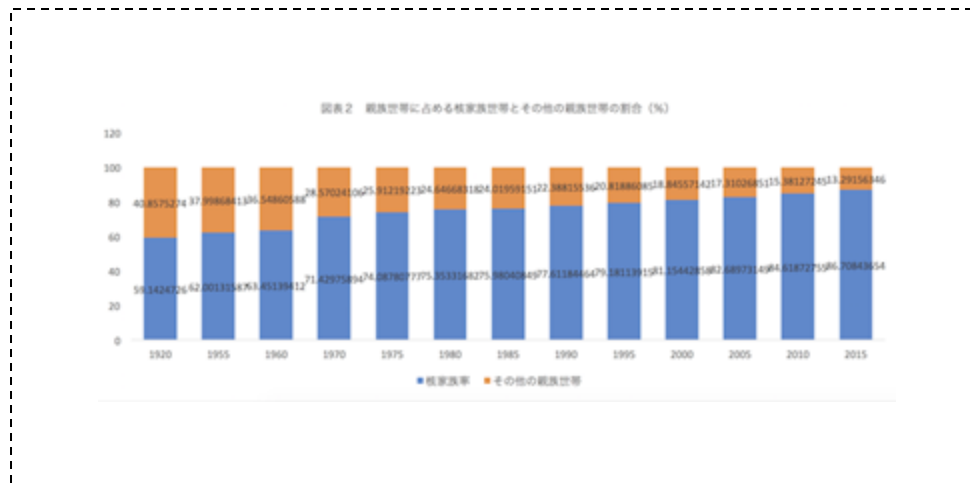
- 「**孤食**」とは「ひとりでの食事」「家族バラバラの時間に食事すること」になります。
成長期を迎える子供に様々なマイナス影響が考えられます。
- **核家族化の進行と共働き世帯の増加**。親が仕事で不在などの理由で子供が一人で食事をするケースが増えている。
- 食事のマナーが身に付かず間違いに気づかずに大人になる可能性。
栄養バランスの偏り。対人、コミュニケーション能力の不足が考えられる。

■ 共働き等世帯数の年次推移



出典：厚生労働省

■ 親族世帯に占める核家族世帯とその他の親族世帯の割合



出典：講談社

▶ NEXT : バスケチームが子ども食堂運営

■ 実行者／解決方法／残る課題

- **プロバスケットクラブ「B.LEAGUE」とステークホルダーと共に子供食堂を開設。**
スポーツの技術指導だけでなく幅広く子供の能力を育むことが目的。
- スポーツクラブが子供たちに孤食させない場を提供。**スポーツを通じてマナーや協調性、コミュニケーション能力を育てる**取り組みを行っている。
- 資源の確保（ボランティアスタッフ・食材・会場・資金など）が必要。また、**社会の認識を良い方向に**しなければいけない。

■ こどもたちが安心して過ごせる第三の居場所として



出典：川崎ブレイブサンダース

■ 学校もクラスも違う友だちと楽しく食事



出典：川崎ブレイブサンダース

▶ NEXT : 企業の協力で普及活動の促進及び社会に理解される

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- スポーツクラブのスポンサー等による寄付と開催者の自己負担で成り立っている。
安定した運営費の確保が問題。
- 運営費の透明性、子ども食堂に行かせたくないという大人も存在するのでスポーツクラブを通じて**社会の理解**を深めていく活動。
- スポーツに関わりのある**企業のリソースである社員人材の活動**。NPOに寄付、イベントの協賛。CSR活動で支援先を公募することもできる。

■ こども食堂全国箇所数



2018年以降は認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ

出典：むすびえ

■ CSR活動のフレームワーク

パーパス・オリエンテッド・アプローチ

「これからのCSR」を実行するには、自らの大義を明確にしなければならない。その、企業の至上命題／存在意義にフォーカスしたフレームワークが「**パーパス・オリエンテッド・アプローチ**」である。この時の「パーパス」は、日本語の「目的」より「存在意義」の意味に近い。



出典：サステナビリティ

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 厚生労働省,「共働き等世帯数の年次推移」,2024年3月6日参照 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/20/backdata/1-1-3.html>)
- 講談社,「核家族が進んでいる」,2018年4月2日 (<https://gendai.media/articles/-/54833?page=2>)
- 川崎ブレイブサンダース,「B.LEAGUEのSDGsへの取り組み」,2023年11月27日 (https://www.bleague.jp/news_detail/id=355207)
- 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ,「こども食堂全国箇所数発表」,2022年12月15日 (<https://musubie.org/news/uncategorized/6022>)
- サスコンサルティング合同会社,「「いままでのCSR」と「これからのCSR」の違い」,2019年4月22日 (<https://andomitsunobu.net/?p=15800>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。